

治療の流れ

SNM (仙骨神経刺激療法) では、はじめにリードのみを体内に挿入し、1~2週間ほど、体外式刺激装置による刺激を行い、治療効果を判定します。これを試験刺激といいます。

試験刺激により効果が認められなかった場合には、刺激装置の植込みは行わず、リードを除去して治療を中止します。

試験刺激により効果が認められた場合には、刺激装置を植込み、本治療を継続します。リードを体内に挿入するための手術と刺激装置を植込むための手術をあわせて、約1週間程度の入院が必要になります。

1 治療の説明/相談、排泄日誌の記入

担当医師から治療の説明を受け、よく相談の上、治療を実施するかを決定します。患者さんご自身で毎日の排泄の様子を1~2週間にわたり記録していただけます。



2 リードの挿入

SNM (仙骨神経刺激療法) の効果を測定するために、まずリードのみを体内に挿入します。大きな切開を行うような手術ではありませんが、手術室で麻酔をかけて行います。リードは仙骨にゆっくりと挿入します。



3 試験刺激期間

試験刺激

挿入したリードに専用のケーブルを用いて体外式の刺激装置を接続して刺激を行い、治療効果を判定します。試験刺激期間は1~2週間で、期間中は毎日排泄の様子を記録していただけます。



4 刺激装置植込み

本植込み

試験刺激により治療の効果が認められた場合は、継続的な治療を行うために刺激装置を体内に植込みます。おしりのふくらみ上部の皮膚を切開して皮下ポケットを作り、すでに挿入されているリードと接続した後、リードと共に刺激装置を植込み、皮膚を縫合します。



5 退院・フォローアップ

退院後は、患者用プログラマを用いて患者さんご自身で、刺激のオン/オフや刺激強度の調整ができます。日常生活で注意する事項をお知らせするため仙骨神経刺激療法手帳とカードをお渡しします。また、必要な安全情報の提供を敏速に行うため、機器の製造販売元に植込み情報の登録を行います。

